

地層の逆転

Inverted layer

砂岩泥岩互層

万年橋から下流の風口橋までのあいだの南牧川ぞいには、連続して跡倉層の上部層が見られます。跡倉層は、白亜紀後期（8000万年前）に堆積した地層で、根なし山をつくる地層の一部です。ここでは砂岩と泥岩が数cmから数十cmの厚さで交互につき重なっていて（砂岩泥岩互層）、横から見るときれいな縞模様になっています。



砂岩泥岩互層

級化

一枚の地層をよくみると、下の部分は灰色で砂の粒子が粗いのにくらべ、上にいくほど細かくなり、上の面に近いところは黒い泥岩になっています。水の中で砂や泥が堆積するとき、粒の大きいものほどはやく沈むためにできる現象で、級化といえます。

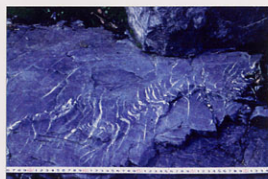


地層の逆転

地層の逆転

橋の上流の左岸（北西側）で地層を観察しましょう。この地層の級化をよくみると、上が粗く下が細かくなってほかと反対です。移動してくるあいだにこの部分はひっくりかえって、上下が逆転してしまっていることがわかります。

地球の窓探索コース



羽状割れ目

羽状割れ目

黒い泥岩層の表面に白いすじ（脈）が見られますが、力をうけたときの割れ目を方解石がうめたものです。そのうちで、短い多数の平行線がS字形に曲がった羽状割れ目が見られます。どのような力がはたらいたのか、考えてみましょう。



流痕

流痕

地層面に水の流れてきた跡が見られます。流痕といえます。泥の面にできたくぼみを砂がうめたものですが、ここでは地層が逆転していますので注意しましょう。